

# 農林水産大臣賞受賞

元気で楽しい「生きがづくり」

みはらむらしゅうらくかつどう

受賞者 一般社団法人三原村 集落活動センターやまびこ

(高知県幡多郡三原村)

## ■ 地域の沿革と概要

三原村は高知県の西部に位置し、古くは三原郷と呼ばれ、明治22年の町村制施行により「三原村」となっている。14集落によって構成されており、令和7年3月末時点で人口は1,342人、高齢化率は48.7%となっており、人口減少と高齢化が進行している。

三原村は、標高120mの高原地帯で面積の約86%を山林が占めている。村の南側の今ノ山を源流域とする下ノ加江川や、北側の貝ヶ森山を源流域とする四万十川支流中筋川の流域に集落が点在し、気候は温暖多雨

で、豊富な水資源と昼夜の寒暖差に恵まれた肥沃な土地を有している。

第1図 位置図



## ■ むらづくりの概要

### 1. 地区の特色

三原村は、稲作と果樹栽培が中心であり、古くから米どころとして知られており、村で栽培された米は「三原米」として親しまれている。

また、近年ユズの産地化に取り組んでおり、整備された農地に鳥獣防止柵を設置して新植し、乗用草刈り機で除草するなど新たな栽培方法で将来を見据えた産地育成に取り組んでいる。(公財)三原村農業公社が運営主体となり農地を集積し、ユズの新植及び肥培管理を行い、新規就農者に一定面積を貸与するなど新たな施策を構築するとともに、ユズの集出荷施設を整備し、安心して就農できる環境を、地方公共団

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	14集落の集合体	
組織の性格	農村型地域運営組織	
人口等	総人口	1,342人
	総世帯数	718戸
農業経営体数 (内訳)	農業経営体数	120経営体
	個人経営体数	113経営体
	団体経営体数	7経営体
	(内、法人経営体数)	6経営体
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	8,537ha
	耕地面積	260ha
	田	190ha
	畑	70ha
	耕地率	3.0%
	一経営体当たり耕地面積	2.2ha

体が行う珍しい取り組みと評価をいただいている。

平成 16 年には日本で初めて「どぶろく特区」の認定を受け、村内でのどぶろく造りによる農家所得の向上と地域活性化を図る取り組みをスタートさせた。これによって、三原村は、どぶろく発祥の村として全国的に認知度が向上し、どぶろくは村を代表する特産品として定着している。

## 2. むらづくりの基本的特徴

### (1) むらづくりの動機、背景

三原村においては、高齢化の進行や人口の減少に伴う地域活動の衰退、村内で唯一の生鮮食料品店が廃業するなど生活面での不安、担い手不足といった課題に直面している。

こうした課題を解決するため、平成 25 年に村全体を 1 集落と捉え村内 14 集落の区長をはじめ、諸団体・グループ等により集落活動センターの準備

会を立ち上げ、研修会、勉強会を開催した。集落活動センターの基本理念である「村民が主体となって地域の課題やニーズに応じ、生活・福祉・産業といった様々な活動に総合的に取り組む仕組みづくり」を村内に根付かせるため、各区長に協力をお願いしたが、当初はなかなか理解を得ることができなかった。「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識の共有や説明に約 1 年を費やすなど様々な困難を乗り越え、平成 26 年に県内で最初の、1 つの自治体全体を 1 つの集落活動センターでカバーする、三原村集落活動センターを設立した。

設立以降、村民それぞれが持つ集落への愛着や誇りを感じながら「生きがいつくり」・「安心して生活できる村」・「今後も村に住み続けたい」という強い想いを実現するための、官民の垣根を越えた村全域での取り組みが始まった。具体的には、村民の誇りである三原米や美しい田んぼを守る取り組み、元気な女性グループの方々が地元の食材を活用した料理でもてなす取り組み、各地区で地域活性化の核となっているお祭りを皆で支援する取り組み、村内へ来てくれた移住者が地域に馴染めるようにするための取り組み、地域の歴史や文化、自然を生かした観光体験の取り組みなど様々な活動に村民一体となって取り組んでいる。

また、令和 4 年度からは、農村 RMO モデル形成支援事業（以下、「農村 RMO 事業」という。）を活用し、農用地の保全、地域資源の活用等の強化に取り組んだ。

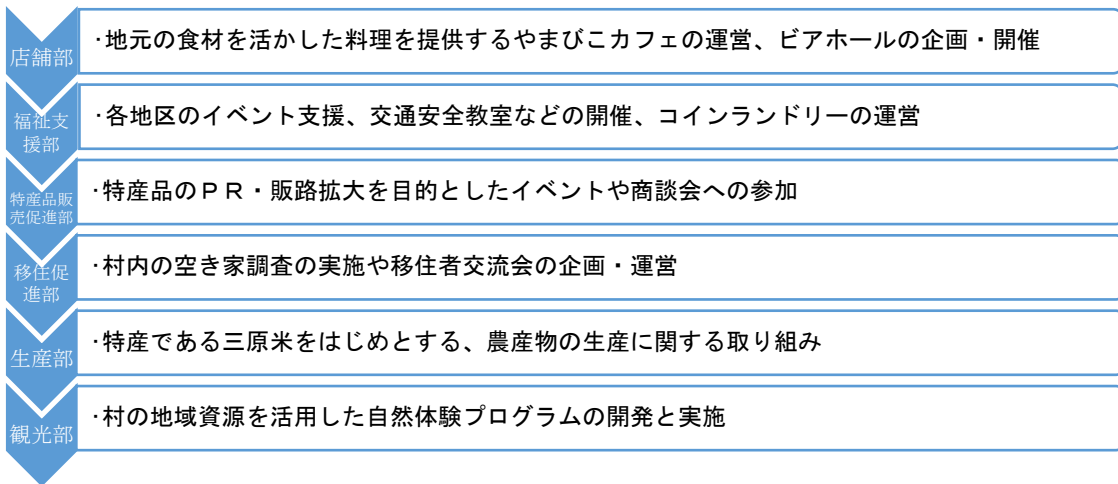
### (2) むらづくりの推進体制

（一社）三原村集落活動センターやまびこには、6 つの部会（店舗部・福祉支援部・特産品販売促進部・移住促進部・生産部・観光部）がそれぞれの分野で活動している。



写真 1 三原村

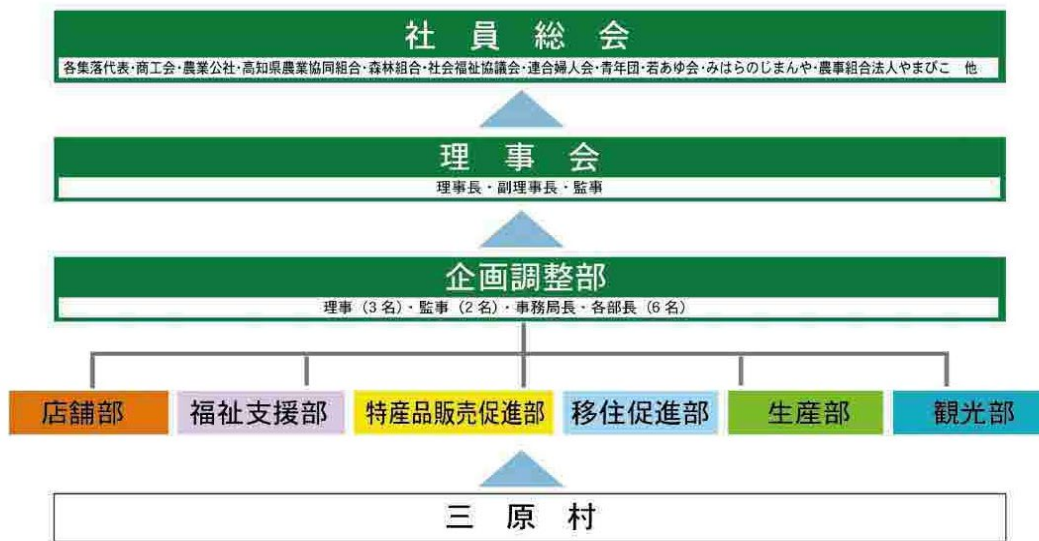
第2図 各部会の主な活動



また、構成員となる社員には、村内全14集落の代表者に加え、JA、森林組合、社会福祉協議会、婦人会、青年団といった地域の多様な団体が参画し、地域協働でむらづくりに取り組んでいく体制となっている。

第3図 組織体制図

■組織の概要 一般社団法人 三原村集落活動センターやまびこ



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

三原村では、高齢化の進行や人口の減少に伴う地域活動の衰退や生活面での不安、担い手不足など中山間地域が抱える様々な課題に直面している。

一方、村民が持つ集落への愛着や誇りを感じながら「今後も村に住み続けたい」という強い想いを実現するために話し合いを始め、平成26年に県内初となる村内全域を対象とした集落活動センターを設立した。

設立前には、「自分たちの地域は自分たちでつくる」という意識を共有していくための話し合いに約1年を要し、空中分解寸前の危機にも直面したが、行政との連携や各集落の区

長の協力によって一つにまとめることができ、課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業といった様々な活動に一致団結して取り組むことができている。

これまで、村内全 14 集落のほか、JA、森林組合、社会福祉協議会、婦人会、青年団といった地域の多様な団体が参画して活動し、各部会（各部長）のもと専門性を活かしつつ、村全体の課題に横断的に対応しながら、地域内で協働してきた。

持続可能な地域運営組織として、「安心して生活できる村」、「生産活動を継続しながら農村維持ができる村」を目指し、農用地保全や各部会による地域資源の活用、生活支援など様々な活動を通じて村民の交流促進および地域コミュニティの維持に繋げ、「村に住み続けるための仕組みづくり」や「元気で楽しい生きがいつくり」を今後も進めていく。

## 2. 農業生産面における特徴

### (1) シシトウ栽培と農事組合法人三原やまびこ

生産部では軽量で作業がしやすく、設備投資が少ないといったメリットに加え、安定価格でJAが買い取ってくれるシシトウ栽培を開始した。元気な高齢者を増やそうと村内から人を募集し「好きな時に好きなだけ働ける」をモットーに、重労働はできなくても手作業ならできる高齢者の皆さんを巻き込んだ地域活動の仕組みを構築し、地域住民の憩いの場を生み出し、安定した収入の確保を実現した。

平成 28 年に「農事組合法人三原やまびこ」を設立し、栽培 1 年目から売上 1,000 万円、栽培 7 年目には設立からの累計売上 1 億円をそれぞれ達成し、中山間地域における農業振興のロールモデルとして注目を集めている。

第 4 図 農事組合法人三原やまびこ



**老人ホームより農作業(ハウス)で元気な高齢者を増やそう!**

重労働はできなくても、手作業ならできる高齢者の皆さんを巻き込んだ、集落生産活動システム。



### (2) ブランド米「水源のしずく」

また、農家の所得向上や担い手の確保など、地域農業の活性化を目指し、令和元年に「三原米ブランド化研究会」を設立し、低農薬の特別栽培米であるブランド米「水源のしずく」を開発。

同研究会においては三原米のブランド化を引き続き推進しており、栽培



写真 2 ブランド米 水源のしずく

田の土壌調査や土壌改良を行い、品質向上に努めている。

令和7年には、特別栽培米の販路拡大を目指していくにあたり、大きな課題であった精米作業や、手作業での米の選別作業の省力化・効率化を進めるための精米ラインの活用に向けた実証を行った。実証で確認できた作業時間の短縮や効率化を踏まえ、大口の受注に対応できるような体制づくりに取り組んでいく予定である。

今後も三原米のブランド化を推進しながら、商談会やイベントを通じた販路拡大に取り組み、地域農業の活性化を目指していく。

### (3) 特産品開発販売、村外へのPR

特産品販売促進部では、地域の伝統文化を継承していくため、村内の協力者から休耕田を借り受け、こんにやく芋を栽培し、手作りさしみこんにやくを商品化し、土産物として人気となっている。

また、商談会やイベント出展を通じた三原村のPRとブランド米「水源のしずく」、どぶろく、土佐硯、トマト、ユズ製品、生きくらげ、手作り刺身こんにやく等、村の特産品の販路開拓を担っており、特産品販売額は令和5年には約320万円近くにまで成長し、地域の経済力を底上げする仕組みとして確立されつつある。

さらに、三原村のPRのため、平成28年にご当地キャラクター「ししとう家族」を考案。世界的に活躍しているダンサー山田うん氏の音楽及び振り付けプロデュースにより、平成29年3月から活動を開始した。

活動開始以降、各種イベント等への参加、テレビや新聞などの取材のほか、TV番組出演などを通じて、三原村のPRや情報発信に結びついた。

近年では、フジTVローカル番組への出演や大阪府大阪市にオープンした高知県のアンテナショップ「SUPER LOCAL SHOP とさとさ」で三原村をPRするなど、徐々に出演の依頼がきている。また、村のふるさと納税の目玉となる返礼品として、ししとう家族がお米を宅配する取り組みを始めた。

### (4) 直接支払制度、農村RMO事業、地域計画

農用地保全の面では、中山間地域等直接支払制度において広域連携体制（西部集落協定、東部集落協定）の事務業務を担っている。

また、農村RMO事業の取り組みの一環として、第6期中山間地域等直接支払の集落戦略策定に参画した。

その他、令和6年度に策定された地域計画においては、農事組合法人三原やまびこが将来の担い手として位置づけられている。



写真3 特産品販売イベント



写真4 ししとう家族

### 3. 生活・環境整備面における特徴

#### (1) 安心して暮らせる環境づくり

三原村集落活動センターやまびこでは、店舗部、福祉支援部、移住促進部の活動を通じて、安心して暮らせる環境づくりに取り組んできた。

店舗部では、村の旬の食材を使った日替わり定食を提供する「やまびこカフェ」を運営している。このやまびこカフェでは、地元のおかみさんたちが交代で四季折々の地元の食材を活かした家庭的な手づくりのランチを提供し、好評を博している。これらのおもてなしによりカフェは、村内外からの来店者による交流拠点となっており、村の農産物の地産地消・外商につながっているほか、おかみさんたちの生きがいくりの場としても機能している。コロナ禍以前は年間約1万人が来店していたが、コロナ禍では店内飲食を休止して持ち帰り弁当販売のみとした。令和4年6月より感染対策を講じた上で店内営業を再開し、来店者数は回復傾向にあり、村の集いの場として賑わいを取り戻した。そのほか、地元のおかみさんたちが料理を提供する「やまびこピアホール」を年1回開催し、村内外から約200名が来場している。

福祉支援部では、高齢者の健康づくり・生きがいくりを目的とした活動を行っている。村内各地区のイベント支援のほか、健康づくり教室、地震防災教室や交通安全教室を開催し、高齢者の生活支援を行っているほか、村民卓球大会等を開催し、老若男女の参加により、世代を超えた交流の場づくりに取り組んでいる。

また、生活利便性の向上を図ることを目的に、村民アンケートで特に女性層から強いニーズが複数寄せられたコインランドリーを整備した（平成28年度に高知県集落活動センター推進事業費補助金を活用）。このコインランドリーの運営面では、24時間営業（監視カメラ付き）としたことで管理負担を軽減しつつ、スニーカー用の洗濯機も導入するなど、細かいニーズにも対応している。コインランドリー内には休憩スペース等はあえて設けず、洗濯が終了するまで敷地内のやまびこカフェや、みはらのじまんや（村で唯一の生鮮食品を扱うお店）の利用を促す仕組みにしている。今では利用者層が想定以上に拡大し、若者から高齢者まで幅広い世代に活用されている。



写真5 やまびこカフェ おかみさん達



写真6 やまびこピアホール



写真7 コインランドリー

移住促進部では、定住促進のための短期長期宿泊施設の指定管理を村から受託している。また、移住者を地域に定着させることで人口減少を防止するため、ユズ収穫体験、しめ縄作り体験、カマドごはん・餅つき体験等、移住者交流会を開催し、村民と移住者との関係構築を図っている。



写真8 定住促進のための短期長期宿泊施設

## (2) 交流人口の拡大

観光部では、三原村ならではの地域資源（文化、伝統芸能、植物、食）を掘り起こし、体験型観光プログラムとして提供し、交流人口の拡大に取り組んでいる。

令和4年度からは、農村 RMO 事業の取り組みの一環として、新たな体験メニューであるスローサイクリングを開発した。先進



写真9 スローサイクリングツアー

地視察、試走会・モニターツアーの実施、商品造成会議を行い、村内の田園風景を楽しむ周遊コースを作成したほか、研修会等の開催によってガイドを育成した。

スローサイクリングツアーは、令和7年度から本格稼働する予定である。関係人口の増加に繋げるため、村内事業者との連携をさらに密にすることで既存の体験プログラムの磨き上げを行い、公共交通機関との連携や経済波及効果が期待できる仕組みを構築していくことを目指している。将来的には、三原村を発端とした幡多全域を巻き込む体験プログラムにしていきたいと考えている。

また毎年、村内の美しい田園風景や暮らしの文化、人物など三原村ならではの写真を募集し、フォトコンテストを開催している。近年では村内はもとより県内外からのエントリーも多数に上り、表彰式は村最大のイベントである三原村どぶろく農林文化祭にて実施している。受賞作品は祭りの会場で展示した後、村内の観光スポットの星ヶ丘公園の交流棟や活動拠点である三原村農業構造改善センターに展示し、多くの来訪者に観覧していただいている。